

知的生産の技術④アンケート(20051031)

1

自分を知るまでは、他人を知ることにはできない」みたいな言葉を紹介していただきました。看護では患者さんの気持ちを考えなければならないので、まず自分を知らないといけないのかなと思いました。また、少しニュアンスを変えれば、自分の看護ができないということにもなると思いました。
今日は嫌な過去も良かった過去も含めて今の自分がいるんだと思いました。

小学校当時の思い出したくない事柄も思い出してしまいました。と陰鬱な気持ちになった。なぜ嫌なのか考えることもこの一環なのでしょうか。

学校低学年の時の出来事と、小学校高学年の時の出来事は、全
言っている間私は大きく成長、進歩していた時期があったと
います。小学校時代は、楽しいことがとても多かったです。

2

比べるな、過去の自分と比べよ」という言葉がすごく印象深く残った。小学校のころを
と毎日楽しくて笑っていた気がした。今ほど悩みもなく、将来の事とかまったく考えてい
からか・・・？久しぶりに小学校の友達に会いたくなり、同窓会でも開こうかと思った。
タイプは「助ける人」だったけど、小学校の時はどんなタイプだったのだろうかと思った。
ではなさそう。

今日の授業を受けて、人生史が書きあがるころには、人生のテーマが
はっきり見えるようになっていたい。人生のテーマがさらにはっきり見え
になっていたい。そして、先生のように人生プランを描きたい。
小学校のころの振り返りをして思ったことは、6年間でいろいろな人と関
て少しずつ成長していたのだと思った。

してしまったので、今回初めてこの作業をしてみて、
羊だった。
うと環境も変わっていると感じた。当時の自分の顔を
がら書いてみたが、なかなか思い出せず、周りの人
ふれるように誘導されるように思い出されてきた。
が楽しみです。

やはり小学校のことともな
ると、思い出すことも多く
いろいろ書き出すことが
できた。みんなで話し合っ
ていても、共感できること
が多くて楽しかった。

時代のことは比較的よく覚えていて、いろいろなエピソードが
。今考えるとタイプ2につながる部分もあって面白い。
と比べるな過去の自分と比べよ」迷ったら常に苦しいほうを選
らも私にとってすごく難しいことではあるけれども、これを意識
がけるようにすれば、自分にプラスにはたらくと思うので頑張っ
い。

小学校の話をしていて、たとえ6年間という長い年月だったとしても、思い出
として残っているくらいの出来事はそれほど多くないと思った。自分が同窓
会の幹事だったことを思い出した。

5

小学校時代はいろいろ思い出があるの
んの出来事を思い出すことができた。
他の方々とは休職など共通の話題で盛り上
次回の中学校はもっと詳しく書きたい。

遅刻してすみませんでした。以後気をつけます。毎回すばらしい言葉を
を教えてくださり、感謝しております。
岡本太郎の「迷ったら苦しい選択をする」これは当たっています。私も
一の選択の際は困難な道をどういふ訳か選んで遠回りしてきたような
ますが、今になってみるとそれがプラスになっています。
それから、幼年小学校と振り返って記憶が消えているのでもう少し考
めてみたいと思います。ありがとうございました。

迷ったら、常に苦しいことを選ぶ。今まで確実に楽な道を選びつづけてきた。その選択が正しかったのか正しくなかったのかいまだに分からないが、なんとなく人生が味気のないものになってしまったような気がする。苦しい選択をして、努力し、悩んで人生を切り開いていくのもやりがいのあることなのかもしれないと思った。

小学校時代は自分の原点だと思う。継続は力なりという今の考え方をはじめて実践した時期だからだ。今でも、この時期の努力を思い出すと頑張れる気がする。思い出すいろいろなことができてほんとうに楽しかった。

幼稚園のころは、みんな大きな差は無かったけれど、小学校のころはみんなそれぞれ違って個性がでていた。小学校のころを思い出して、忘れてしまっていたことが多かった。先生の名前はきちんと覚えていて、教師という職業はすい職業だと思った。小学校のころは夢やなりたいものなどなかったもので、小学生のころの自分をみせたらどう思うのかなあと思った。

小学校時代は長かったせいか、自分もいろいろ成長してきていることがわかった。昔のほうが今の自分よりも開放的で自由に生きていて楽しそうだった。だが、このときの学びが今の自分の支えになっていると実感した。

いろいろな話すのはおもしろかった。タイプはおもしろいけど、それにとらわれて、タイプで人に先入観を持ったりするのはなく、あくまで人間関係にするための1つの手段としていきたいと思う。いろいろ話をしていく中で自分の生活や当時の環境や流行を思い出しておもしろかったです。

■ 小学校時代では、タイプ別の性格は表れている人と、表れていない人がある。必ずしも今の性格と同じとは限らない。皆それぞれ。人生の中で、今の「自分自身」になっていったのだろう
■ と思う。それを知るのには本当に楽しいし、自分自身もそのように変化していったのだと感ずることが出来る。自分自身のタイプ別では、小学校時代からその素質があったのだと思う。
■ 「明日は明日でなんとかなる」と考えているところや、いきあたりばちの人生はこのときからだった。そう考えると、やはり自分は根っからタイプ7にんげんであると確信した！！

先週まで体調を崩して自分がどのタイプかわからなかったんですが、それからプリントを借りて自分がどのタイプなのかやってみたら、大体自分とあっているタイプになり、おもしろいと思いました。
■ 他人といっても、その人のことをよくしろうとするし、話を聴いてみたいと思いまさに、今までの人生聞き役として過ごしてきたのがわかりました。
■ そして、そのつど相手に意見をいい、大体うまくいっていました。これからの人生も多分自分が話すよりも相手の行っていることを聞く側になるのだと思いたした。
■ 他の方の話聞くのは楽しいことだと思った。また、自分の過去を振り返るから自分がどんなだったかわかりこれから先の自分をどうすればいいのかわかる。思える。

■ 前回初めて自分のタイプを知り、もう一度タイプ別の性格プリントを見ると、そのタイプだと納得した。今回のタイプ別の評判を見て、自分ではそういうところがあるとはいるけれど、他の人からみてもそう思われていたらしいと思う。目標を細かく書くという行為は思考をきちんとまとめた形にするための手段であり、自分がその目標を達成するという行為への制約だと思う。かくことによって、それを達成するんだという心構えを作っているように思う。